

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 2科目 150分

## 解答形式

記述・論述

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

## 出題の特徴

一昨年度は近年稀に見る簡単な問題が出題された。昨年度と今年度は一昨年度よりは難しい問題が出題されたが、例年よりは簡単な問題であった。

第1問有機は昨年同様Ⅰ、Ⅱに分かれていなかった。

今年度は第2問はⅠ、Ⅱに分かれた。(例年通りに戻った。)

## その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

第1問のフェノール樹脂の合成で教科書の表現と一致しない記述があった。

第2問で十酸化四リンの構造式を完成させる問題が出題された。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	記述、論述 計算	有機	化学	フェノールの置換反応を利用した有機化合物の合成、異性体、フェノール樹脂	標準
第2問 Ⅰ	記述、論述 計算、描図	理論、無機	化学	黄リンの製法、十酸化四リンの分子構造、水素-酸素燃料電池の電極反応と発電効率	やや易
Ⅱ	記述、論述 計算、選択	理論、無機	化学	銅と鉄の精製、銅の電解精錬、金属イオンの性質	やや易
第3問 Ⅰ	記述、論述 計算、選択	理論	化学基礎	ヨウ素滴定による硫化水素の定量、実験誤差の考察	標準
Ⅱ	記述、論述 計算	理論	化学	ペロブスカイト型の結晶構造とその安定性	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

基礎力を確立するとともに思考力・応用力を養成すること。論述問題が多いので、「過去問」などを通じて、論理を明確に展開する力をつけておく必要がある。